

1. 研究課題名：

震災時に放出された化学物質の東北沖魚介類生態系における
生物濃縮と毒性リスク評価

2. 研究代表者氏名及び所属：

磯部 友彦（愛媛大学・上級研究員センター・講師）



3. 研究実施期間：平成 24～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

東日本大震災によって多様な化学物質が環境中に放出されたと考えられるが、放射性物質を除き、海洋生態系を対象とした化学汚染の調査・研究はほとんど実施されていない。本研究では、震災時に海洋へ流出した化学物質のうち、生物に蓄積して健康を脅かす可能性のある残留性有機汚染物質や有害金属に着目し、東北沖の魚介類等を化学分析して濃度レベルの地理的・経時的な変化、および生物濃縮の態様を解明する。愛媛大学には震災以前に採取した試料が保存されているため、これらと比較することで震災の真の影響を検証することが可能となり、長期継続的モニタリングの必要な物質を選別・特定して今後の行政施策に寄与することを目指す。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 新規 POPs（残留性有機汚染物質）候補物質の分析法開発（愛媛大学）
- ② 東北沖海洋生態系における残留性有機汚染物質の汚染実態（愛媛大学）
- ③ 残留性有機汚染物質・有害金属汚染の経時的推移（愛媛大学）
- ④ 残留性有機汚染物質・有害金属の生物濃縮特性（愛媛大学）

6. 研究のイメージ

